



地域の未来を創る 人材育成事業

「しいの実シアター未来学校」

《令和元年度寄付者設定テーマ事業報告》

認定 特定非営利活動法人あしづえ

地域の未来を創る人材育成事業
しいの実シアター未来学校



子どもたちの環境の変化

- 40年前 (1979年) パソコン
- 36年前 (1983年) ファミコン
- 27年前 (1993年) インターネット
- 26年前 (1994年販売開始) 携帯電話
- 9年前 (2010年) ドローン

地域の未来を創る人材育成事業
しいの実シアター未来学校



心と体をフル回転

子ども時代にしか味わえない

感動や充足感

辛さや悲しさをも

しっかり受け止めてほしい

地域の未来を創る人材育成事業
しいの実シアター未来学校



育てたい3つの力

- アイディアを出し、考え、
試行錯誤しながら実現する力
- 仲間と力を合わせ、一つの作品を創る力
- 自ら発信し、表現する力

芸術体験

- 観る力
- 表現する力
- 交流する力

暮らし体験

- 人と協力する力
- 折り合いをつける力
- イメージする力
- 味わう力
- 予測して考え行動する力

4年目の令和元年度から
新たなステージ第II期へ
「劇で遊ぼう！」を開催

令和元年8月8日~10日
9:30~16:00
小1~中2 20名が参加

1日目

友だち作りのワークショップ
劇場探検
暮らし体験

劇場探検



▶ 音響・照明の機械操作に
興味津々の子どもたち

暮らし体験

- ▶ 衣裳をつくる
- ▶ 着物や洋服、布などの素材から自分で選んで、自分で作っていきます。

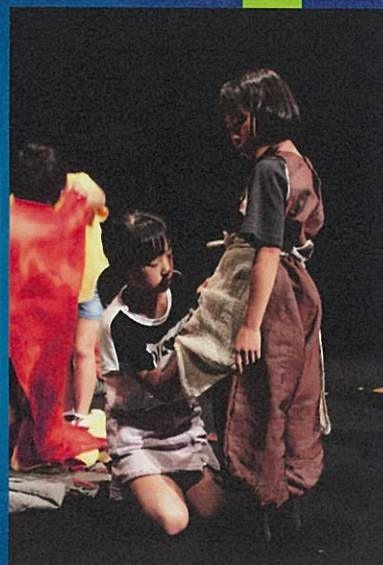


暮らし体験

自分がなりたい登場人物をイメージして、小道具を作ります。



アイデアを出し合ったり、助け合って衣裳ができていきます。



地域の未来を創る人材育成事業
しいの実シアター未来学校



2日目

発表会までのスケジュールや
作品、自分のやりたいことなど
子どもたちが話し合って決める

話し合って 決める

- ▶ お話のあらすじや、どんな場面
にするかを話し合う



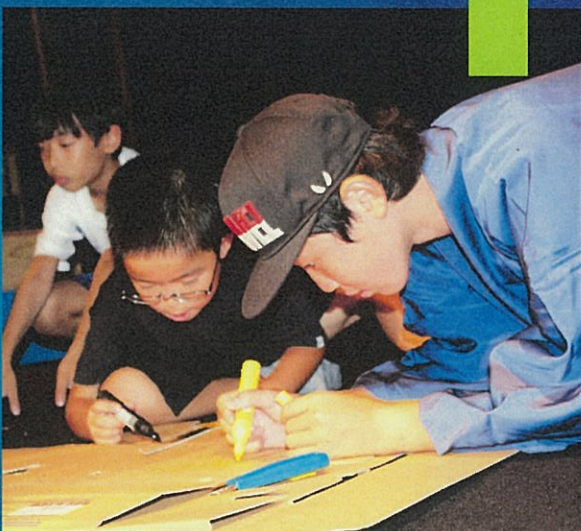
やりたいこと を出し合う

- ▶ 「着物を着せる場面を入れたい」
と、チャレンジ中



必要な小道 具をつくる

- ▶ 話し合いながら、必要な
小道具を作っていく。
- ▶ 手の空いている人に、協
力をお願いも。



やりたいけど、 どうしたら いい？

- 困ったときは、相談してみ
ることも。
- 他グループのリハーサルか
ら気づくことも。



3日目

「劇」づくり発表会

家族・地域の方に「劇」を観てもらおう
自分たちが何に工夫したのかも発表する

リハーサル!



- ▶ 実際にやってみてわかったところを修正したり
- ▶ ダンス・セリフの場面のバランスを調整したり
- ▶ 照明や音を追加したり

ポスターを作る



- ▶ 発表会を前に、グループごとに作品のポスターを作りました。





発表会

- ▶ 家族や地域の人をお招きして、劇を観てもらいました。

どんなところを工夫したのかを
発表しました。



- ▶ 家族の方々から、
- ▶ 「三日間で工夫したことようすを見て、成長を感じた」という感想をいただきました。

初対面だけど、 活動しながら仲間になっていく！

- ▶ 参加した子どもたちは、学校も違うし、学年も様々。
- ▶ 初対面の友達と、一緒に活動しながら友達に。
- ▶ 自分で考えた登場人物をイメージしながら衣裳を考えて作る。
- ▶ 衣裳を作りながら、お互いに助け合ったり、アイデアを出し合ったり。

- ▶ 登場人物からどんなお話ができるかイメージして、一緒に劇をつくるグループづくりへ。
- ▶ グループでは、役者、照明、音響などの役割を決めて、お話のあらすじや台詞を考えていきました。

育てたい3つの力

- アイディアを出し、考え、試行錯誤しながら実現する力
- 仲間と力を合わせ、一つの作品を創る力
- 自ら発信し、表現する力

初対面の友達と、アイディアを出し合い、力を合わせて、作品をつくることができました。

グループのなかでの対立や、グループ間の対立などもあったが、それで投げ出すことなく、乗り越え最後まで諦めずに作り上げた。

未来学校経験者の子どもが、リーダーになったり、メンバーをサポートする様子が見られた。

活動支援金の活用

収入の内訳

収入	決算額
活動支援金	170,000
その他の助成金等収入	346,000
自己資金	118,684
合計	634,684

活動支援金の内訳

項目	金額
人件費	9,500
報償費	143,370
旅費	14,830
消耗品費	540
写真費	1,760
合計	170,000

来年度以降実施に向けては、指定管理料・補助金等で事業費の確保につとめていく。

今後の拡がり

「集団生活に馴染めない」ことを心配する保護者からの問合せが多い

「学校」「家庭」とは違う環境で自己表現



日常生活でのコミュニケーション力UP!

継続することで育つ人材

毎年継続して参加している子ども

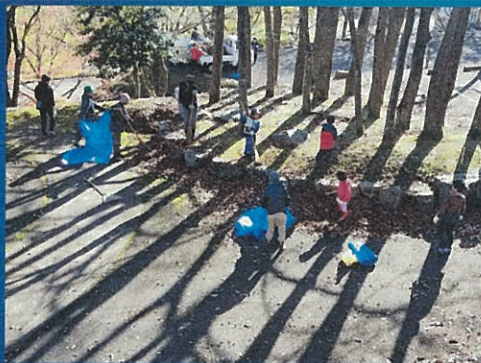


先輩として他の子どもたちのリーダーに

継続で「未来学校」卒業生が増え
地域での人材が育っていく

11/30開催 しいの実シアター未来学校 落ち葉を楽しもう！

しいの実シアターの事業に参加した子どもたちと大人と一緒に落ち葉集め。子どもたちは、自分で仕事を見つけながら、積極的に活動していました。



地域の未来を創る人材育成事業
しいの実シアター未来学校



将来の目標

「未来学校」を継続

子どもたちの社会体験の場に！

子どもたちが運営する「子ども劇場」へ

地域の未来を創る 人材育成事業 「しいの実シアター未来学校」

《令和元年度寄付者設定テーマ事業報告》
補足資料

認定 特定非営利活動法人あしづえ

①状況の緩和・改善（ニーズに対する効き目）

【ニーズ】子ども達が自主性を発揮する機会が少ない



【事業内容】グループ分けや当日のプログラムを子ども達自身に決めさせた



【効き目】

- ・発表会までに間に合うように、子ども達が互いに声を掛け合っていた
- ・誰一人、「できない」「した事がない」などと言いつぶすこと無く、自分達で工夫して黙々と作業を進めていた
- ・他グループの様子を見て、自分たちの作品の参考にしていた

②原因の解消（再発の抑制・防止）

【問題の原因】大人が先回りして準備をすることで、子ども達の思考力を奪っている



【抑制や防止につながり、効き目が長持ちする工夫】

- ・発表会をし、どの様な過程で作品が創られたかを説明することで、子どもが元から持っている能力の高さを大人が実感する場を設けた
- ・子どもたちの話し合いには極力大人が介入しないようにし、自分達で考える習慣をつけた
- ・途中で作品創作の過程を発表する時間を設け、優先順位を感じながら活動する機会をつくった

③基盤の整備（社会に対しても）

- ▶ 社会に対して基盤として何が残ったのか、4月以降何を残していけるようになったか
 - ・参加者には、学校生活の中でもコミュニケーションに課題をかかえている子どももあるようだったが、初対面同士が仲間として力を合わせ、一つの作品を創り上げたという経験から、達成感や自己有用感を得た。日常においても、この経験は子どもたちの自信となってコミュニケーション力の向上につながる。
 - ・保護者は、日常では気付かなかった子どもたちの成長や変化を感じることができた。
 - ・生き生きと活動する子ども達の様子から、演劇の要素を取り入れたこのような活動の必要性が、地域の人にも少しづつ理解されてきた。
- ▶ どういう人とのつながりを基盤として作っていったか
小中学生とその親世代や祖父母世代、地域住民
これらの人にとって、劇場・事業の会場というだけでなく居場所としても認識されるようになってきた。

④担い手の成長（自主財源率の改善など）

- ▶ 自主財源率を高めるためどのような工夫をしたか
 - ・活動内容や意義を広域に情報提供し、支援者を増やした
- ▶ 交付を受けた活動支援金をどのように事業実施に活用したか
 - ・当日運営スタッフパート賃金 @1000×9.5H
 - ・講師謝金 @45000×3日+交通費
 - ・旅費 講師日当、スタッフ交通費・高速料
 - ・消耗品費 小道具用紙類
 - ・写真費 写真用DVD
- ▶ 来年度以降運営していくうえで必要な資金をどうしていくか
 - ・指定管理料のなかの事業費および補助金等により必要な事業経費の確保に努める。